（第三種郵便物認可）

# 「房州びと」を追って

## 地元生まれ　移住者　2拠点暮らし

# 廃校に新たな息吹

## 多田　朋和さん（42）

## 良品計画との出会いで

南房総

南房総市白浜地区で、2011年に閉校となった旧長尾小学校と幼稚園。施設を利用して、2016年に「シラハマ校舎」をオープン。校舎がオフィスやゲストハウス、レストランなどの多目的施設となり、校庭に無印良品の小屋が立ち並ぶ。

香川県出身。千葉工大への入学とともに上京。都内の内装関係の会社で改修や建築の仕事を続け、「自然豊かな地方で、都会の人に癒やしを与える空間をつくりたい」と起業プランを描いた。

各地を回って物件を探した結果、白浜で4階建ての元ホテルの寮だった建物にたどり着く。この施設を1年かけて改修して開業したのが「シラハマアパートメント」。1階がカフェ、2階がゲストハウス、3階が賃貸ルーム、4階が多目的スペースという複合事業を立ち上げた。

市が旧長尾小学校と幼稚園の利活用案を公募したのは、事業を始めてから5年がたったころ。建物に惚（ほ）れ込んでいた当人は、施設を解体せずに利活用する事業プランの構想を温めていた。しかし、大規模な施設を若手起業家が活用する案には高いハードルが立ちはだかる。

好機となったのは、無印良品ブランドを運営する株式会社良品計画との出会い。良品計画は地域活性化を目的として廃校の校庭に「無印良品の小屋」を製作するビジョンがあった。白浜を訪れた同社事業開発担当部長が多田さんの構想に賛同し、旧長尾小学校で全国初となる「無印良品の小屋」を販売する計画が活用案に盛り込まれる。「この出会いや協力がなかったら、おそらく私の案は通らなかったでしょう。良品計画さんには本当に感謝しています」。

しかし、資金的なサポートはない。校舎の改修にかかる見積もりは1億3000万円超。一方、受けられる融資は4000万円だった。このときの心境を聞くと「愕（がく）然としました。しかし、もう後戻りすることはできない。やるしかない。その一心でした」。

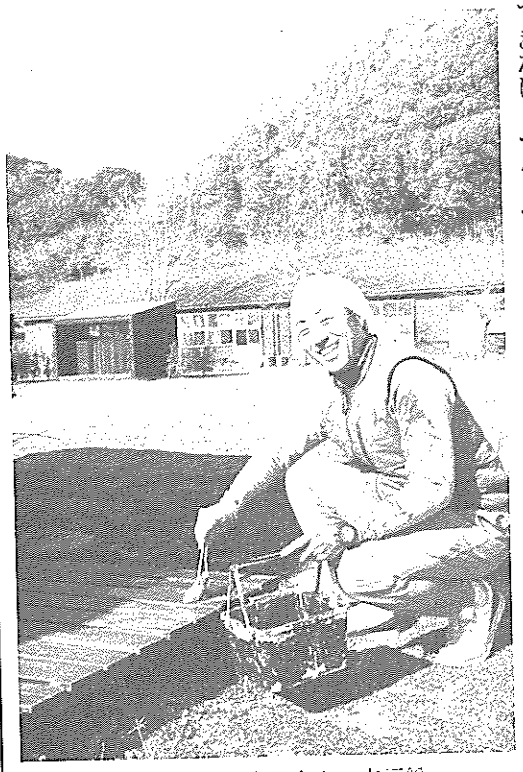
外注する予定だった箇所は自ら引き受け、地域内の建築家や工務店、設備会社が協力。約1年間かけて超ローコストで改修を実現させた。廃校を利活用した改修として評価が高く、2017年に世界の4大デザイン賞に数えられる「グッドデザイン賞」の受賞という快挙に結び付いた。

現在、シラハマ校舎は、地元白浜出身で旧長尾小学校卒業生でもある妻、佳世子さん（43）と二人三脚で切り盛りしている。今年の成人式では2人にとって喜ばしい出来事があった。「長尾小学校の最後の卒業生が、成人式の後に、遊びに来てくれたんです。今も校舎が残っていることを喜んでくれて、本当にうれしかった」。

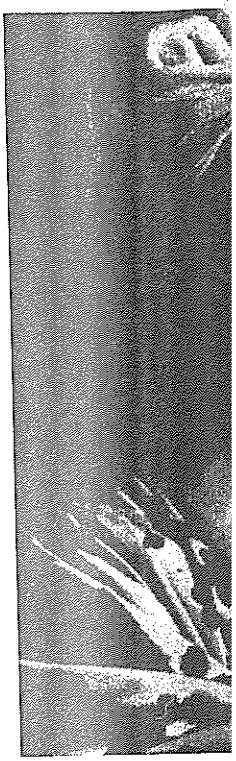
廃校のままであれば解体の可能性もあった旧長尾小学校。原型を残しながら文化的な建物と評価されていることを喜ぶ地域住民も多い。

「そもそもこの学校は、昔地元の方が海から砂を盛って高台をつくり、地元の方が設計した施設。私たちは、これに少しエッセンスを足したにすぎません」。

シラハマ校舎は、一般向けにレストランが営業しているが、オフィスや無印良品の小屋を利用する人々は、都市住民や2拠点居住者が大半だ。そこで、地域住民に気軽に立ち寄ってもらうことを目的として開催しているのが「シラハママーケット」。これからも旧長尾小学校と幼稚園が地域のシンボルのような存在であってほしいという願いが込められている。



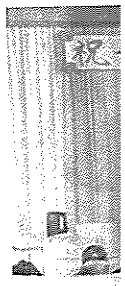
塗装作業中の多田さん＝南房総



「おふ

人形

が見込まれる。LAの入荷数量は横ばいの見込み。保合い相場が見込まれる。テッポウの入荷数量は横ばいで、



館山市社会福祉協議会九重支部（押元修一